

第2回

教育学関連諸学会 共同シンポジウム

■開催日—2014年6月22日（日）

■会場—中央大学駿河台記念館

〒101-8324 東京都千代田区神田駿河台3-11-5

JR・地下鉄 御茶ノ水駅から徒歩5分、地下鉄新御茶ノ水駅から徒歩3分

参加費：無料（懇親会のみ会費付の予定）

全体テーマ「教育研究の未来—世代と国境を越えて—」

●10:00~10:15 開会挨拶

●10:15~12:45 シンポジウム1 「若手と教育研究」

趣旨：教育研究の未来は、新しい世代の参入にかかっているといても過言ではない。特に、教育研究の枠組みが硬直化することを防ぎ、パラダイムの刷新をはかるうえで、若手の参画は必要不可欠である。学会活動への若手の参画を促し、教育研究における世代間の対話をいかにして進めていけるか、また、若手研究者の関心と問題提起を各学会はどのように受け止め、位置づけているのか。各学会での経験を交流し合い、討論を深めていきたい。

提案：小林正泰（東京学芸大学、教育史）小野文生（同志社大学、教育哲学）

内田良（名古屋大学、教育社会学）倉持伸江（東京学芸大学、社会教育学）

司会：小玉重夫（東京大学）

●14:00~16:30 シンポジウム2 「教育研究と国際化」

趣旨：教育研究の「未来」を展望するとき、国際化はどのような意味をもつのか。日本の教育研究の諸領域は、多くの場合、その草創期から海外の研究動向から強い影響を受けてきた。個々の学会においては、すでにそれぞれ独自の方針とルートで国際交流・連携を進めてきている。一方、2009年には世界教育学会（WERA）が発足し、日本教育学会はその設立メンバーとして参画している。学術研究のグローバル化傾向が一層強まるなかで、教育研究の国際化はどのような方向に進むのか。各学会の取り組みを共有しつつ、今後の課題と展望について議論を深めたい。

提案：一見真理子（国立教育政策研究所、教育史）加藤守通（上智大学、教育哲学）

米沢彰純（名古屋大学、教育社会学）笹井宏益（国立教育政策研究所、社会教育学）

司会：松浦良充（慶應義塾大学）

●16:30~16:45 閉会挨拶

●16:45~18:00 懇親会（予定）

主催：教育学関連諸学会共同シンポジウム企画フォーラム

第2回シンポジウム実行委員会—日本教育学会 教育史学会 教育哲学学会

日本社会教育学会 日本教育社会学会

連絡先：日本教育学会事務局—TEL：03-3253-6630 FAX：03-3254-0477 E-mail：jsse@oak.ocn.ne.jp